

看護闘争ニュース

NO. 151

2009年2月19日

2009年春・看護要求実現全国交流集会

看護の心一つに 増員・確保法改正・働き続けられる職場づくり・制度一本化を！

- 2009年春・看護要求実現全国交流集会が、2月11～12日熱海市において開催され、7全国組合39県医労連242名が参加しました。看護職員確保法の改正、看護職員需給見通し、大幅増員と働き続けられる職場づくり、2年課程通信制と看護制度一本化など、課題をたくさんかかえながら、今春闘を元気に奮闘し、看護要求実現にむけて全国の看護職が意思統一と経験交流をおこないました。



★新看護対策事務局長の相澤幸敏書記次長が「2009年春の看護要求実現のとりくみの推進について」基調報告を行いました。現場の増員要求を看護職員確保法と結合させ、国会決議を確実に履行させ法改正を迫るたたかい、増員・夜勤協定締結・改善のたたかい、看護「合理化」許さず働き続けられる職場づくり、2年課程通信制の改善・看護制度一本化の課題で、運動提起を行いました。

★特別報告では、「村上優子さんの勝利判決について」（大阪医労連・松永律さん）、「オーストラリアのノーリフト運動」（全医労・山田真巳子さん）、「2交替とのたたかい - 働き続けられる職場づくり -」（国共病組・中島良子さん）、「2年課程通信制の本格的見直しを」（山梨県医労連・飯野ヒデ子さん）の報告があり、どの報告も関心と共感を集めました。

★5つの分散会と基礎講座「組合活動の基本、看護の職場活動」（講師・小池康義中執）が、職場の当面している問題や運動上の悩みなども出し合いながら、それぞれ議論が行われました。

★まとめ集会では、村上優子さんの母・加代子さんが裁判勝利の報告と、「二度と優子のような犠牲者を作らないために、職場の改善を」と訴えられ、大きな共感の拍手がありました。

◆記念講演

○経済学的に科学的根拠をもとにしても、看護師の働く現場の厳しさ、診療報酬制度の矛盾・問題点が明らかだと感じた。わかりやすく端的に問題点が話され、本当に眠くなりませんでした。

○「看護師はバナナ？」私たちは国家資格を持ちながらも、長い年月、国家に安く買い叩かれてきたということがわかり、たたかひの方向ははっきりしました。

◆基調報告

○看護要求について医労連の方針がわかりやすく説明され、単組の独自要求でも取り入れていきたい。

◆特別報告

○村上裁判について、詳しくは知らず、あらためて見てみると、職場に活かせること、自分自身を守るための術が沢山詰まっていた。

○2交替制がたくらまれているなか、どう闘うか大変よく分かった。

○ノーリフト運動は、日本ではなかなかない考え方でおもしろいと思った。

記念講演

「日本の看護労働の実態と欧米との比較、今後の課題」角田由佳氏（看護労働研究者）

諸外国との比較でも日本の看護労働の問題点が明らか

講演では、アメリカやカナダ、欧米諸国に較べて、日本が突出して多いバーンアウトや仕事への不満足、30歳未満の看護師割合、看護師配置数への不満などが、国際比較のグラフなどで明らかにされました。

また、経済学の視点から、看護師不足で需要が急増しているにもかかわらず、看護師の賃金や雇用が安くされているのは、「不完全な市場」、医療経営者がパワーを持つ「買い手独占市場」の歪んだ構造が医療に潜んでいる経済・政策的問題として指摘されました。

診療報酬のしくみが、配置人数で決まる報酬制度になっていること。現状は「誰がやっても同じ仕事」という評価になっており、看護師が勤務することでスキルを高められるように、労働条件・環境を整備するインセンティブが働きにくい問題点を指摘しました。

最後に、労働条件・環境を改善する意義は看護師のためであると同時に、看護のアウトカムの質改善につながり、国民全体にも必要なことであることを強調されました。

参加者の感想



○2年課程通信制の大変さが改めてわかると共に、飯野さんの報告は感動的でした。体験談に勇気づけられた。

◆分散会

○他の病院の現状、組合の取り組みを知ることができる良い機会だと思った。職場の問題点を話し出せば、とまらなくなるくらい沢山の意見が出る分散会でした。

◆基礎講座

○あまりにも知らないで損をしていることが多いと思った。

◆全体を通して

○村上優子さんのお母さんの話は胸に響きました。二度と過労死を出さない働きやすい職場づくりをめざします。

○現場のこと、自分の病院のこと、患者のことを、自分たちの問題として捉え、改善することを考えている人たちが大勢いることに、私も嬉しく思ったし元気づけられるよいきっかけになった。